彩の国 埼玉県
Saitama Cancer Center News

がんセンターだより

第 47 号
平成28年３月31日 発行
発 行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病 院 長
坂 本 裕 彦

基本理念 “唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 形成外科の紹介…… 1
- 薬剤師の仕事をご存知ですか？…… 2
- 日本一優しい病院をめざして ―平成 27 年度　患者満足度調査の結果から…… 3
- 第６回埼玉県民がんサイエンス・サロン／埼玉県民のためのがんの集いを開催しました… 4

埼玉県のマスコット コバトン

形成外科の紹介

形成外科部長
齋藤　喬

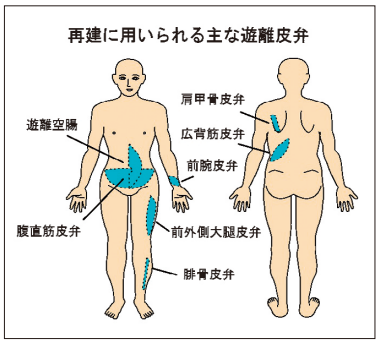
形成外科は2005年1月よりがんセンターに新設されましたが、1981年頃から頭頸部再建手術等の応援に形成外科が関わっておりますので歴史は30年以上になります。

形成外科は、身体外表の形状の変化や醜状を、外科的手技により機能的あるいは形態的に正常にもどすことにより、個人を社会に適応させることを目的とした診療科です。

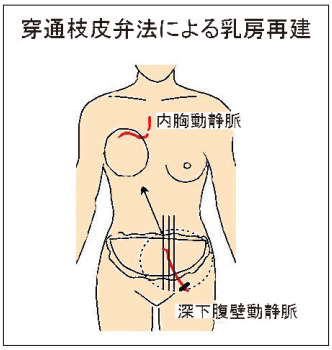
一般的には、外傷、熱傷、先天奇形、腫瘍、褥瘡、糖尿病壊疽、美容など多岐にわたりますが、がんセンターでの形成外科の役割は、腫瘍切除後の再建手術が主なものとなります。

再建手術の中で大きな割合を占めるものに、頭頸部再建と、乳房再建がありますのでそれらについて簡単に説明します。

頭頸部再建では、口、舌、のどの癌、一部の食道癌の広範切除後に他の部位から皮膚や筋肉などを移植する皮弁手術が行われます。皮弁とは簡単に言うと血流を保ったまま、組織（皮膚、皮下組織、筋肉、骨など）を移植する手術法です。代表的なものとして、前腕皮弁、前外側大腿皮弁、腹直筋皮弁、遊離空腸、腓骨皮弁、肩甲骨皮弁があり、移植する組織の厚さや量により皮弁を選択します。これらの場合顕微鏡で血管をつなぐ特殊な技術が必要になります。



乳房再建は、人工物によるものと、自家組織による再建があります。



2013年7月に一部のエキスパンダーとインプラントが、さらに2014年1月に、しずく型のインプラントが保険適用になり、これらの手術を選択する患者さんがとても増えています。乳房切除後に大胸筋の下にエキスパンダーを入れ、外来で少しずつ生理的食塩水を注入していき、約半年後にシリコンインプラントに入れ替えます。

自家組織には、背中やおなかの皮膚と皮下脂肪を、筋肉をつけて移植する広背筋皮弁と腹直筋皮弁があります。また近年多く行われるようになってきたものに穿通枝皮弁というものがあります。腹直筋皮弁では筋肉が犠牲になるのでこれを最小限にするため、大腿の付け根から分かれ筋肉を貫き皮膚に出てくる細い血管を、傷つけないように慎重にはがしていき、皮膚と皮下脂肪を血管をつけたまま切り離します。切除された乳房部分に組織を移植後、この血管を胸の中央付近の肋骨の下にある血管と顕微鏡でつなぐ方法です。その際、人工呼吸でわずかに胸が上下するため、顕微鏡のピントがずれてしまいます。そのずれを抑えるため、独自に開発した簡易的な装置（スタビライザー）を用いて血管吻合を行いやすくするといった工夫もしています。

その他には整形外科、消化器外科、皮膚科など各科からの要請に応じ再建手術を行っています。

中山　季昭　　坂口　涼

皆様は薬剤師がどんな仕事を行っているか、ご存じですか？

今回は私たちがんセンター薬剤師の仕事について紹介させていただきます。

①調剤業務

昔から行われてきた、薬の取り揃えです。でもただ揃えるだけではありません。医師の処方せんの内容を薬剤師の視点で確認した上で、患者さん１人１人に合わせて提供しています。特に抗がん薬については特段の安全性を確保するため、投与量や投与スケジュール、皆様のお体の状態も含めて細かく確認しています。確認のためお時間をいただくこともあるかと思いますが、どうかご理解ください。

②医薬品情報業務

薬は適正に使用されないと大きな事故につながります。その適正な使用に必要となる医薬品情報の収集・管理も薬剤師の大切な業務です。特に抗がん薬の進歩は早く、次々と新しい薬が世の中に出てきていますので、最新の情報をいち早く医療スタッフに提供し皆様に安全な医療が行えるよう心がけています。

もちろん患者の皆様への情報提供も行っています。抗がん薬治療を行うべきか悩んでいる、医師にいくつかの治療を提案されたけど、どれを選択するべきか決めかねている、副作用に困っている…。そんな時、きっと皆様のお力になれると思います。ぜひ、お気軽に薬剤師までご相談ください。

③服薬指導業務

薬の治療を受ける際、不安や怖さが生じますよね。それはだれでも同じです。使用する薬が抗がん薬や麻薬であればなおさらです。でも、もし正しい薬の使い方やその効果、副作用とその対処方法を知っておけば、もっと安心して、そして注意深く治療に取り組んでいただけるのではないでしょうか。薬剤師はそのための手助けを行っています。ぜひ、皆様の治療に対する想いをご相談ください。

抗がん薬無菌調製室

④抗がん薬無菌調製業務

皆様が使用する注射用抗がん薬は、身長・体重や当日の体調をみて投与量が決まります。ほぼ全ての抗がん薬を薬剤師がオーダーメードで無菌調製しているのです。薬の安定性や安全性を考え、皆様が通院治療センターに到着してから準備しておりますので、診察終了後の急な体調変化等にも対応可能です。遠慮無くお申し出ください。

この他にも新しい治療に関わる臨床試験や治験に関わる業務や、感染対策や栄養サポート、緩和ケア、褥瘡（床ずれ）対策の医療チームに参加し、他のスタッフと連携しながら専門性を活かした活動を行っています。

いかがでしたか？

私たち薬剤師は従来の業務や形式にこだわることなく、薬の専門家として様々な視点から患者さんに今後も安全で安心な治療を受けていただけるように努力しています。薬に関する疑問、質問、ご要望等ございましたら、是非お気軽に薬剤師までご相談ください。

薬剤部は２階にあります

日本一優しい病院をめざして

－平成 27 年度 患者満足度調査の結果から－

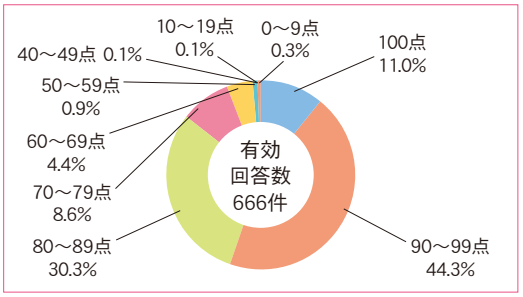
患者満足度調査は、当センターの患者さんを対象に、当センターが患者さんにご満足いただけているかを検証するために、毎年 1 回実施しております。

平成 27 年度の患者満足度調査では、外来患者さんは平成 27 年 10 月 13 日から 15 日まで、入院患者さんは平成 27 年 10 月 12 日から 23 日までの間に配布したアンケートを回収・集計しました。回収件数は、外来患者さん 1017 件、入院患者さん 228 件でした。

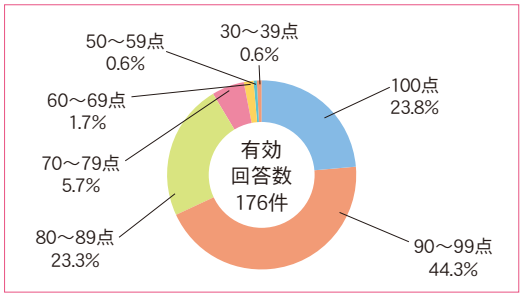
たくさんのご回答をいただき、ありがとうございました。

当センターに対する満足度を100点満点で採点してください。

●外来患者さん…平均 85.8 点

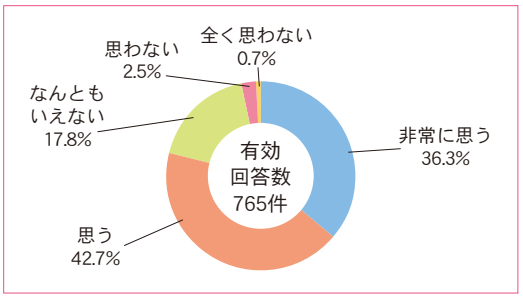


●入院患者さん…平均 89.5 点

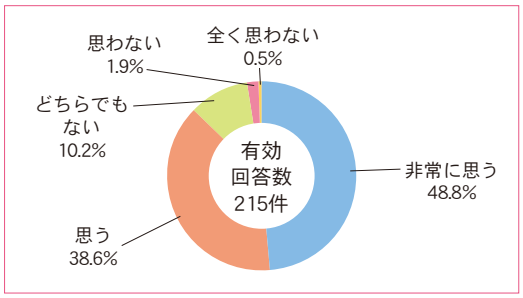


当センターは「日本一優しい病院」を目指していますが、そう思いますか？

●外来患者さん



●入院患者さん



患者さんからの、当センターに対する総合的な評価（満足度を 100 点満点で評価）は、平均で外来部門 85.8 点、入院部門 89.5 点でした。

お寄せいただいたご意見につきましては、「日本一優しい病院」を実現するための大切なご意見として、前向きに検討させていただきます。

平成 28 年度も患者満足度調査を実施いたします。お忙しいところ恐れ入りますが、多くの皆様のご理解ご協力をいただけると幸いです。

患者満足度調査の集計結果は以下の HP でご覧いただけます。

http://www.pref.saitama.lg.jp/saitama-cc/

第6回 埼玉県民がんサイエンス・サロン

がんの謎を探る　見てみよう!がん細胞とDNA

1月30日（土）がんセンター研究棟において、第６回埼玉県民がんサイエンス・サロン「がんの謎を探る一見てみよう!　がん細胞とDNA」を開催しました。近年、がん研究はますます専門性を深めており、研究者と県民の皆様との知識の溝を埋めるために、研究内容を理解していただく活動が求められています。がんの科学面について、研究者が情報を提供し、県民の皆様と共に討論し、理解を深めることを目的に、実習や講演によるがんサイエンス・サロンを毎年実施しています。

当日は61名の参加をいただきました。坂本病院長の挨拶で始まり、野田哲生・がん研究会がん研究所所長に「今日のがん患者さんを治し、明日のがん患者さんを生まないためのがん研究」と題して最新の知見を交えたご講演をいただきました。実習ではＤＮＡの観察、および顕微鏡によるがん細胞の観察を行いました。グループごとに研究員を交えて「がん」について様々な意見交換や質疑応答も活発に行われました。研究機器見学では、DNAシークエンサーやDNAマイクロアレイを見学しました。本サロンを通じて「がん」を科学することに触れ、がんの解明が一歩一歩進んでいることを実感していただけたのではないかと思います。

（がんサイエンス・サロン実行委員　臨床腫瘍研究所　角　純子）

第40回 埼玉県民のための“がんの集い”を開催しました

平成28年１月31日（日）に、「第40回　埼玉県民のための“がんの集い”」を、さいたま市のソニックシティ国際会議室にて開催しました。本年度の総合テーマは、「見つけて治そう、あなたのがん」です。

第1部では「がん検診から治療を受けるまで」（演者：埼玉県疾病対策課がん・疾病対策担当主幹、がんセンター相談支援センター看護師）というテーマで、埼玉県が作成した、がん対策推進計画と重点的に取組む課題、そして実際に、がんと診断された場合の受診までの手続きについてがんセンターを例にした説明がありました。「がんに負けることのない社会の実現」を目標に、行政だけでなく民間企業と、がん健診受診の重要性を広める草の根レベルでの取組も紹介されました。

第2部では「二次検診及び治療について」（演者：がんセンターの医師４名婦人科、呼吸器内科、消化器外科、内視鏡科）というテーマで、二次検診によって診断されたがんの状態に対し、医師がどのように治療方針をたてているのか講演されました。演者は、がん検診によって早期発見されたがんの治療は臓器の切除部位が小さく、生存率が高いと来場者に呼び掛けていました。

来場者から、がん検診受診の重要性について理解した旨の感想を多くいただき、今年度の「がんの集い」も実りある講演会となりました。